

北方領土隣接地域の魅力を発信するシンポジウム結果概要

1. 目的：北方領土隣接地域の訪問客拡大が国民への北方領土問題の啓発に寄与する観点も踏まえ、地域の特性を生かした今後の方策について、北方領土隣接地域発見ツアー（ファムトリップ）参加者から講演を行うとともに、パネルディスカッションを実施する。

2. 対象：根室管内の観光関係者及び観光関連業者等

3. 日時：平成29年6月18日（日）12:30～14:30

4. 場所：北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）（根室市）

5. 主催：内閣府

6. プログラム：

12:30 開会

挨拶 鶴保 庸介 北方対策担当大臣

12:35 第一部 基調講演

・北方領土隣接地域発見ツアー（ファムトリップ）結果報告
発表者 ㈱日本旅行取締役兼常務執行役員 大槻 厚 氏
（北方領土隣接地域発見ツアー団長）

・大槻厚氏と鶴保庸介大臣による対談

・会場との質疑応答

13:40 第二部 パネルディスカッション

コーディネーター 北海道大学観光学高等研究センター長
西山 徳明 氏

パネリスト ㈱日本旅行取締役兼常務執行役員
大槻 厚 氏

別海町教育委員会

戸田 博史 氏
別海ジャンボグルメ地域活性化協議会副会長

大隅 啓年 氏
内閣府北方対策本部参事官

荒木 潤一郎

14:30 閉会

7. シンポジウムの様子



鶴保大臣挨拶



大槻氏による講演



鶴保大臣と大槻氏の対談(1)



鶴保大臣と大槻氏の対談(2)



パネルディスカッションの様子(1)



パネルディスカッションの様子(2)

8. 結果概要

【第一部 北方領土隣接地域発見ツアー（ファムトリップ）結果報告】

《大槻氏（ツアー団長）による発表》

- ・ 北方領土隣接地域発見ツアーについて、視察先ごとの概要及び所感（セールスポイント、改善点等）を報告。
- ・ 隣接地域のセールスポイントは、自然（野付半島等）、温泉（養老牛温泉等）、食（ホタテ等）、文化（アイヌ）及び歴史（ロシアや北方四島）等。
- ・ 課題は、教育（団体）旅行への対応（宿泊施設不足等）、個人旅行への対応（二次交通の整備等）及びインバウンドへの対応（多言語対応等）。
- ・ 課題解決のアプローチとして、長期的な観光基本計画の策定、「日本版DMO」の実現、観光ビジョンプログラム2017への取組、近隣地域との連携、効果的なプロモーション及び人材の育成を提案。

《大槻氏と鶴保大臣による対談》

(主な論点)

- ・ 隣接地域における滞在時間を延ばすための方策
- ・ 食をセールスポイントとする際の留意点
- ・ 訪問客に対する食や買い物などの案内
- ・ 道の駅の活用
- ・ 道東地域における観光戦略の連携

《会場との質疑応答》

(質疑事項)

- ・ 近隣地域との連携やプロモーションの在り方
- ・ 根室管内が広大であることにより、通過型になりがちな観光の在り方の改善
- ・ 繁忙期、閑散期における訪問客の平準化

【第二部 パネルディスカッション】

《北方領土隣接地域の魅力及び課題》

- ・ 釧路市立博物館の簡易軌道に関する企画展開催に伴い企画されたバスツアーに応募が殺到したことや、野付半島の氷平線を使ったトリック写真の企画が注目を浴びたこと（戸田氏）、商品価値のなかった脱皮したシマエビを御当地グルメとしたこと（大隅氏）等、地元としては何気ないものでも、域外の人にとっては魅力があるものがある。
- ・ 現在は第一次産業が中心であり、観光産業はその副業とされていることが多く、観光産業の課題は、
 - ①観光産業を専門にするための季節変動への対応（西山氏、大槻氏）
 - ②ガイドなど産業を担う人材の育成（西山氏、大槻氏、大隅氏）
 - ③観光の展開に伴う牧場所有者や漁師等、既存産業の担い手との対立の解消（戸田氏）
 - ④商工関係のイベント等で地域一体となること（戸田氏、大隅氏） 等。

《今後の展開》

- ・ 今後 10 年で観光の波が押し寄せてくることから、基幹産業である第一次産業に観光産業が相乗効果を持って展開するような在り方の検討や、第一次産業と観光産業を繋ぐ外からの移住者等の人材育成が必要（西山氏）
- ・ 各施設だけではなく、地域全体で観光産業に対する共感、理解を深め、訪問客歓迎という空気を作り出すような取組が必要（大槻氏）